



## 気仙沼高校はユネスコスクールです

ユネスコスクールとは、**ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）**の理念を学校現場で実践するために加盟が認められた学校のことです。日本の加盟校は1,083校（2025年9月時点）にも及び、気仙沼市内の公立幼稚園、全小・中学校も加盟しています。気仙沼市は**ESD（Education for Sustainable Development）＝持続可能な開発のための教育**の推進拠点として位置づけられています。気仙沼高校は2008年より加盟しています。昇降口に掲示されているユネスコスクール紹介のポスターもぜひご覧ください。

**ESD**とは、気候変動・貧困など、現代社会が抱える問題に対して、自分の生活と世界のつながりを理解する課題を主体的に考え、解決に向けて行動するという学びを通して、**持続可能な社会の創り手（change maker）を育てる教育**です。

気仙沼市教育委員会は、ESD活動を支援し、ユネスコスクールの推進に力を入れています。気仙沼高校も気仙沼市とも連携し、様々な取り組みをしています。この紹介もユネスコスクールの活動の一つです。

▶ユネスコスクールロゴ



## 1学年「地域理解講座」が開催されました

5月19日（火）・20日（水）の2日間、1学年「地域社会研究」において、地域が抱える課題・現状についての講演を聴き、今後の研究テーマ決定に生かす5領域の研究講演が実施されました。気仙沼地域の5人の専門家から、**生徒目線に立った地域社会とのつながりを持たせる講話**をしていただきました。

■19日（火）「海と防災」気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館館長 及川淳之助氏

「海と産業」一般社団法人気仙沼つばき会代表理事 齊藤和枝氏

■20日（水）「三陸の自然」有限会社太陽農場社長（元気仙沼高校教員）佐藤忠司氏

「海と人間」NPO法人底上げ理事/気仙沼まち大学運営協議会チーフコーディネーター 成宮崇史氏

「海の文化」神奈川大学日本常民文化研究所特別研究員 小野寺佑紀氏

●「海と産業」齊藤氏

昨年、かつお溜め釣り漁伝来350年のイベントを多く開催。**オリジナルに学んで、新しいプロジェクトにした。**昨年、カツオ水揚げ28年連続が途絶えた。2011年震災の年も日本一だったのに、どうしてカツオが来なくなったのか。**私たちはきちんとデジタルの技術で理解しないとイケない。**

●「海と人間」成宮氏

市長に「気仙沼らしさ」を一言で表すと質問したら市長は「**進取の気性**」と答えた。「**進取の気性**」とは、今までの習わしにとらわれることなく、**積極的に新しい物事に取り組んでいこうという気質**のこと。まさに気仙沼はそのような気質があふれている街だと思う。

●「海の文化」小野寺氏

**地域から学び、地域を知ることは自分を知ることにつながる。**  
自分が地域の一部でもある。

講師の先生の  
言葉を一部  
紹介します



▲地域理解講座の様子

気仙沼市観光キャラクター「海の子ホヤぼーや」

## 探究学習に関するアンケートのお願い

3年生「総合的な探究の時間」では、7月17日最終発表会に向けて、探究活動が大変活発になってきました。そのため特に5月、6月とClassiや教室掲示（QRコード）にて、生徒の皆さんを対象とした、3年生の先輩による「3学年総合的な探究の時間」アンケートのお願いが、担当の先生から出されます。アンケートが配信・掲示されたらぜひ皆さん協力をしてください。

次にまとめたのは「**生徒向け Instagramの開設について**」です。探究活動の一環としてインスタを開設したい生徒・グループがあると思います。そのため「開設の流れ」「基本的な三大原則」「運用の具体的なルール」を定めました。保護者の皆様にも「Instagramアカウント開設に関する願い」を提出してもらおうことになります。別に生徒・保護者向けにもClassiにて配信しますが、よく**内容を確認**し、分からないことは研究企画部の先生までお願いします。